

第11回 品質管理交流会 - 日産自動車(株)横浜工場

品質管理部会では、他社や異業種の取り組みから改善のヒントを見つけることに主眼を置き、品質管理交流会を実施している。今回は日産自動車(株)横浜工場に日産生産方式、企業収益に貢献する小集団活動と改善事例を紹介戴き、エンジン組み立てラインとエンジン博物館を見学した(参加39名)。

日産生産方式

実際にお客様との販売契約が成立した時点で最短の車両組み立て日時を決め、これに合わせて全ての部品を同期させて生産する同期生産方式。完成在庫や中間部品在庫が大幅に削減され、実現していく過程で部門間や会社間のコミュニケーションが改善され、隠れていた問題が顕在化するので、解決を重ねるうちに企業体質が改善される。

企業収益に貢献する小集団活動

横浜工場では1967年より企業体質の改善と働きがいのある職場づくりを目的に小集団活動を実施してきたが、ゴーン社長就任と同時に企業収益に貢献する小集団活動へ大きく方針を変えた。これは、QC手法を使って職場内の課題を解決することにより原価低減に貢献しようというもので、一人当たり年間70万円の経費削減目標を掲げている。以来、各サークルは方針管理に従い、会社や工場の方針に合致したテーマの中から優先度をつけて年間15~16件のテーマに取り組み、



エンジン博物館でのエンジンに関する説明

目標を大きく上回る実績を毎年上げている。また小集団活動のもうひとつの柱として、人材育成にも取り組んでいる。知識・能力・パフォーマンス参加度などから個人を評価する仕組みと目標値が設定されており、教育機会の提供やサークル活動の実践を通し人材が育成されている。